

## 全カリ言語副専攻(言語B)のねらい

佐藤 邦彦

2010年度の全カリ言語新カリキュラムでは、言語Bの必修が1年次科目のみの4単位となる。これに伴い、言語副専攻(言語B)プログラムが開始する。

「言語副専攻(言語B)」というのは、1年次必修の修了後、自由科目という形で中級～上級レベルの学習を一定以上クリアした学生に対して、言語副専攻修了証が授与されるものである。

以下に、その成立の経緯や概要を述べてみる。

### 1. 全カリ第二ステージに向けて

何年も前になるが、全カリ第二ステージに向けての議論が進められる中で、「最低ラインである必修4単位修得後も学習を継続したいという、意欲のある学生のために、自由科目を充実させよう」という案が出、やがて副専攻という話へ進んでいった。

従来の自由科目は、レベルや内容のヴァリエーションに関して、必ずしも明確に系統立てられてはいなかった。そこで、読む・書く・話す・聞く、といったスキルごとの科目立てを明確にしようということになった。ただし、どのスキルを中心に学ぶにしても、必修修了後の基礎力補充はやはり必要なので、スキルごとの科目に進む前に、基礎力アップをはかる段階が必要だろうということになった。

また、単に言語のスキル面を向上させるだけでなく、言語や地域に関連した教養を深めるための科目も必要だろうという議論がなされた。

以上のような観点に立って詰めて

いった結果、次に紹介するような言語副専攻プログラムの枠組みとなった。

### 2. 言語副専攻(言語B)プログラムの概要

1年次必修修了後の自由科目を、次の3つの科目群に分ける：

- ①基礎科目(海外言語文化研修〈中級〉を含む)
- ②コア科目(海外言語文化研修〈上級〉を含む)
- ③関連科目

副専攻修了認定の要件としては、①4単位以上、②8単位以上、③4単位以上の計16単位以上の単位修得が必要である。「海外言語文化研修」は2単位科目だが、〈中級〉は①の一部に、〈上級〉は②の一部に計上できる。

①と②の間には先修制がかかっている、基礎科目4単位以上を修得していないと、コア科目を履修することが出来ない。

4年卒業までに順調に副専攻認定を得るプロセスとしては、2年次に基礎科目4単位を取り、3～4年次にコア科目8単位を取り、この間の任意の時期に関連科目を取る、というパターンが考えられる。

#### 2-1. 基礎科目

1年次必修修了者向けの、基礎力アップ段階。週2回セットの「〇〇語中級」(2単位)、週1回の「〇〇語スタンダード」(1単位)の2種類の科目があり、

これらをセットにして必修科目の時間割グループと同じ数だけ設置する。「中級」は、週2回のインテンシブ展開の利点をいかし、なるべくネイティブの教員が担当する、コミュニケーションに力を入れた展開とし、「スタンダード」の方は、もう少し緩やかかつ総合的に基礎力アップを目指す。

## 2-2. コア科目

学部在学中の言語B学習の到達目標ともなる科目で、例えば現地の大学に留学してどうにかやっているといるぐらいのレベルを目指す。各科目は「上級〇〇語△△」という科目名で、△△の部分としては「コミュニケーション(話す・聞く)」「リスニング&リーディング(受容=読む・聞く)」「ライティング(書く)」といったスキル別のヴァリエーションの他、スキル区分にとらわれず、テーマを設定して学習する「演習」というものもある。

## 2-3. 関連科目

既存の言語B科目である「〇〇語情報処理」に加え、全カリ総合教育科目として「〇〇語圏の文化」「〇〇語圏の社会」が設置される。「情報処理」の方は当該言語の基礎力が必要となるが、総合教育科目の方は一般的な講義科目で、言語のスキルよりも、その言語の背景にある地域についての知識・理解を深めることを目指す。

\* 2009年度から開講している、この関連科目の授業の実際については、本稿のあとに続く、ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語・フランス語の各科目担当者からの報告を参照いただきたい。なお、フランス語の石川文也教授(異

文化コミュニケーション学部)には、特別寄稿『リベラル・アーツ教育』としての「批判的知」の実践:「広さ」と「深さ」をもつ「メタ文化」教育の試み』として、副専攻関連科目「フランス語圏の文化」の授業実践を「全カリ」や教養教育をめぐる状況のなかに重層的に位置づけて論じていただいた。

## 2-4. 海外言語文化研修

夏期集中で現地校の語学研修プログラムに参加する。現地校でのレベル分けに応じて、基礎力補充だったり、より高度な運用能力の向上だったり、目的とするレベルはいくつかあるが、なんと言っても、現地での実践を通して言語を学ぶことと、現地での生活に触れながら、社会・文化についての知識・理解を深めることに大きな意義がある。従来この種の科目を設けていなかったドイツ語・フランス語・スペイン語も含め、2010年度からは「言語副専攻(言語B)」の全ての言語での実施となる。

## 3. おわりに

「言語副専攻(言語B)」の概要は以上の通りである。そのねらいは、(1)4年間の学部在学中、言語Bの学習を継続してレベルアップをはかってもらう、(2)そのために、必修修了後、基礎科目とコア科目という形でレベル設定を明確にする、(3)言語スキル以外の面でも教養を身につけてもらう、といったところであろうか。そして、「副専攻修了」という認定が、学生の継続学習への意欲を刺激する要素になってくれれば、願ったりかなったりである。

さとう くにひこ  
(本学異文化コミュニケーション学部教授/  
全学共通カリキュラム運営センター  
スペイン語教育研究室主任)